2021年度 関西大学 年史資料展示室 企画展

「大学」が千里山へやってきた！

関西大学年史編纂室

関西大学は2022年に大学昇格100年を迎えます

ごあいさつ

2022（令和 4）年 6 月、関西大学は「大学令」による大学昇格 100 年、ならびに千里山キャンパス開設 100 年の佳節を迎えます。それを踏まえ、大阪市内の福島から北摂の千里山に校地を求めた理由や昇格後の変化などに焦点をあわせた企画展を開催いたします。

関西法律学校として創立した本学は、1905（明治 38）年から「私立関西大学」として「大学」の名称を使っていましたが、実態は「専門学校令」に基づく学校でした。1918（大正 7）年 12 月 6 日に「大学令」が公布され、公立や私立の大学設立が認められるようになりましたが、そのためには、「大学令」に定められた条件を満たす必要があり、当時の大学首脳陣は、関西大学を高等教育機関として存続させるため、大変な苦労を重ねました。

昭和初期の千里山学舎航空写真

2021 年度の年史資料展示室企画展は、「「大学」が千里山にやってきた！」と題し、千里山学舎開設前後のエピソードを紹介するとともに、大学昇格にまつわる資料をご覧いただきます。千里山キャンパスの開設当時を振り返ることで、今に至る発展の経過に想いを馳せていただければ幸いです。

Episode 1 電車が走った！ ―北大阪電鉄の開通

関西大学へのアクセス手段となっている阪急千里線の前身は、1921（大正10）年10月26日に開通した北大阪電気鉄道である。電鉄会社が設立されたのは1918（大正7）年11月24日で、天神橋筋東四丁目から淡路を経て千里山へ達する「本線」と、淡路から分かれて十三へ向かう「十三支線」からなっていた。工事施工申請は会社設立の翌1919（大正8）年5月19日に認められ、同年下半期には用地の買収をほとんど終え、1921（大正10）年3月中に十三駅から豊津駅間のレール敷設が完工した。鉄道省へ提出された運転営業開始認可申請は3月30日に認可され、4月1日から待望の営業運転が開始された。

関西大学は1918（大正7）年12月6日公布の「大学令」に依り校地の選定等に着手していたが、千里山への進出は、北大阪電気鉄道の開通が大きな鍵を握っていた。そして、1921（大正10）年10月26日には豊津駅から千里山駅まで延伸され、さらに1922（大正11）5月1日から千里山校地で最初の建物である予科校舎で授業が開始される2週間前の4月17日には「大学前駅」の新設が鉄道大臣宛てに申請された。これにより通学の足が確保された。

1923（大正12）年ごろの「大学前駅」

Episode 2 町ができた！ ―千里山住宅地の開発

1920（大正9）年3月10日、イギリスのレッチワースを手本に、東京の田園調布と並ぶ関西初の本格的田園都市・千里山の町づくりを進める大阪住宅経営株式会社が設立された。

19世紀に「世界初の工業国家」となったイギリスの、ロンドンやマンチェスターといった大都市では、人口急増による劣悪な住宅環境が伝染病の流行ほか、さまざまな問題を引き起こしていた。それを解決したのがエベネザー・ハワードで、都市と農村地帯の長所を兼ね備えた田園都市の建設を構想し、それをレッチワースで実現させた。この田園都市思想は、「東洋のマンチェスター」と呼ばれた大阪の郊外住宅開発にも影響を与えた。

千里山周辺の開発に際し、北大阪電気鉄道は1920（大正9）年1月に内務省の外郭組織である「都市研究会」に開発計画案の作成を委託した。大まかな案は5月頃に完成し、千里山住宅地は大阪の中心部で働くサラリーマン向けの郊外住宅地として計画されたが、「大学」や「千里山花壇」なども含んだ壮大なものであった。

1922（大正11）年11月18日、関西大学と北大阪電気鉄道、大阪住宅経営株式会社の幹部が懇談会を開催し、将来の共同発展策等について意見交換を行っている。「都市研究会」作成の千里山開発計画案からも伺えるとおり、三者は当初から緊密な関係を持っていた。

千里山停留所付近
（北大阪電鉄田園都市計画地の一部）

中面写真　建築中の予科校舎（1922（大正 11）年ごろ）

Episode 3

「大学令」が出た！

――「大学令」の公布と千里山校地の選定

関西大学が千里山に新校地を求めた重要な契機は、1918（大正7）年12月6日に公布された「大学令」である。「大学令」は、学部や経営母体、入学資格、卒業後の学士認定、大学予科、専任教員配置などに関することを定めていたが、大学設立認可に必要な具体的条件は、翌1919（大正8）年3月29日に定められた「大学規程」に示されており、千里山の校地は、それらの条件を満たすべく選定と取得作業が進められた。

「大学令」が公布されて3カ月後の1919（大正8）年2月28日には校舎敷地選定委員会が設置され、同年12月8日には一旦、豊津村垂水の土地が新校地として選定されたが、結果的に取得には至らず、1921（大正10）年2月3日に千里村の土地を購入すべく北大阪電気鉄道と契約を交わした。関西大学の千里山校地選定には、北大阪電気鉄道設立者の一人である大鐘彦市（関西大学監事も務める）の斡旋があり、同時に理事の柿崎欽吾もその誘致に熱心であった。それに加え、Episode2で見たように、北大阪電気鉄道、大阪住宅経営株式会社、関西大学三者の密接な関係が校地選定に大きな影響を及ぼしていた。

官報
第千九百三號
大正七年十二月六日
金曜日
印刷局
勅令
御名御璽
大正七年十二月五日
西園寺内閣総理大臣 原 敬
文部大臣 中橋徳五郎

『官報』に掲載された「大学令」

Episode 4

大学に昇格した！

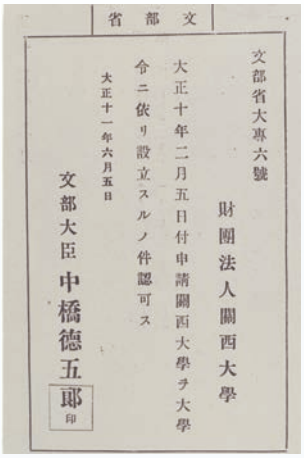
――「大学」への昇格

「大学設立認可申請書」が文部省へ提出されたのは1921（大正10）年2月5日である。その後、文部省から記述内容に関する確認や正誤の指摘などが数度にわたってあり、そのたびに、それを受けての回答文書や修正書類の提出などが繰り返された。

事務折衝と申請書の修正に1年半近い年月を費やしたのち、「大学設立認可申請書」は1922（大正11）年5月23日の教育評議員会で審議、可決され、3日後の5月26日に文部大臣中橋徳五郎から内閣総理大臣高橋是清に宛てて上奏書が進達された。そして同月31日に総理大臣から裁可を仰ぐ文書が提出されたのち、6月5日付で大学昇格が認可された。

それまで募金活動や用地買収など、数多くの苦労を重ねてきただけに、昇格認可に対する関係者の喜びは、ことのほか大きかった。特にその功績が大きかったとして、大学は専務理事の柿崎欽吾と前理事の砂川雄峻の2人を表彰し、長年の労苦に報いた。

新たに設置された大学学部は、法学部（法律学科、政治学科）と商学部の2学部であった。ちなみに、昇格の認可を受ける2週間前には法人の役員が改選され、山岡順太郎が総理事に、柿崎欽吾と宮島綱男が専務理事に選出され、大学昇格後の新体制が整えられている。


文部省
文部省大專六號
財團法人關西大學
大正十年二月五日付申請關西大學ヲ大學
令ニ依リ設立スルノ件認可ス
大正十一年六月五日
文部大臣 中橋徳五郎 印

大学設立認可書

Episode 5

山岡順太郎がやってきた！

――山岡順太郎と「学の実化（じっけ）」

1922（大正11）年6月5日、関西大学は名実ともに「大学」となったが、そこに至るまでの道のりは容易なものではなかった。最大の課題は昇格資金の獲得であった。「大学令」の公布・施行によって、その後の存亡を左右する局面に遭遇した際、ときの理事の一人であった柿崎欽吾は、大阪実業界の重鎮であった山岡順太郎に、関西大学の経営に参画するよう要請した。山岡は、大阪商船（現・商船三井）の副社長や大阪鉄工所（現・日立造船）の会長をはじめ、数多くの企業の経営に携わるとともに、大阪商業会議所の会頭も務める大阪財界の中心的な存在であった。

1921（大正10）年9月、山岡は関西大学拡張後援会会長に就任し、募金活動を開始した。もちろん、それ以前から募金は行っていたが、山岡が会長になることによって対外的な要請がより積極的に行われるようになったと考えられる。1922（大正11）年4月24日開催の臨時協議員総会は山岡を協議員に選出するとともに理事に選任し、翌5月20日の役員会で総理事に選任した。総理事に就任した山岡は、「学理と実際との調和」「国際的精神の涵養」「外国語学習の必要」「体育奨励」の4点からなる「学の実化」を唱導した。山岡のこの指導理念は、その後、関西大学の「学是」となり、現在に至っている。

総理事山岡順太郎

Episode 6

キャンパスが充実した！

―千里山学舎の整備

千里山校地で最初に建てられたのは予科校舎で、工事は1921（大正10）年7月から翌1922（大正11）年4月下旬まで行われ、5月1日から授業が始まった。

運動場の建設計画は千里山校地選定当初からあり、用地の取得交渉も同時期から始まったが、個人所有地の取得に難航し、入手までに3年半あまりを要した。400メートルトラックや野球、サッカー、ラグビーなどの施設を併用し、扇形スタンドを持つ大総合運動場の建設工事は1925（大正14）年秋に始まり、翌1926（大正15）年8月中旬に完成した。当時「東洋第一」と称された大運動場の竣成と同時期の8月初旬には学生集会場（クラブハウス）の建築も始まり、2カ月後の10月上旬に落成した。

大学昇格後、学生数が増加したため、学部学舎の建築が急を要する課題になり、住友合資会社の総事務所を譲り受け、学舎として移築することにした。解体・移築工事は1926（大正15）年初夏から始まり、翌1927（昭和2）年3月に完了した。竣成した大学本館は八角ドームが瀟洒な雰囲気を漂わせていた。

1927（昭和2）年6月から始まった図書館の建築工事は、翌1928（昭和3）年4月に竣工した。これにより千里山学舎の主要な施設はひとまず整った。

八角ドームが瀟洒な大学本館（1927（昭和2）年完成）

Episode 7

学生生活が変わった！

―学生の課外活動と大学祭

関西法律学校の創立以来、基本的に授業は夜間に行われていたが、昇格後は昼間に授業が行われるようになった。講義形態が大きく変わったことで課外活動にも大きな変化が現れた。専門学校時代の福島学舎でも運動施設は設置され、他校との対抗戦は実施されていたが、大学に昇格し昼間の学校となったことで、さらに活発な活動が行われるようになった。当時「東洋第一」と呼ばれた大運動場が完成したことも大きかった。

400メートルトラックをはじめ、各種施設を有する総合大運動場で練習した運動各部は、大正末から昭和初期に黄金時代を迎え、国内だけに止まらず、海外へも遠征していった。なかでも陸上部の大島鎌吉は1932（昭和7）年の第10回ロサンゼルス五輪に出場し、三段跳びで銅メダルを獲得した。簡単に海外へ行けなかった時代に残っている数多くの遠征記録や、枚挙にいとまのない国内外における栄光の軌跡は、大学昇格による学生生活の変化の一端である。

大運動場の完成は、大学祭の挙行へとつながっていく。1926（大正15）年10月24日に挙行された第1回大学祭では記念講演会や運動競技会など、多彩な行事が繰り広げられた。以後、大学祭は毎年開催され、大阪市民が楽しみにする関西大学名物になっていく。

ロサンゼルス五輪における
大島鎌吉の銅メダルジャンプ

Episode 8

大学は昔、遊園地だった！

―千里山花壇・遊園から関西大学外苑へ

関西大学第一中学・第一高校から関西大学会館、第3学舎のエリアには、かつて「千里山花壇・千里山遊園」と呼ばれた遊園地があった。北大阪電気鉄道が「千里山花壇」を開設したのは1921（大正10）年8月14日であるが、その後、数度にわたって改修工事が施された。最初の工事は1926（大正15）年3月から1927（昭和2）年5月にかけて行われた。経営母体が新京阪鉄道に変わり、新路線が開通したことで、より魅力的な遊園地になるよう新施設が多数設置された。二度目の工事は1931（昭和6）年、三度目の改修は1937（昭和12）年上半期から1939（昭和14）年2月にかけて行われた。このときは園地の面積が倍増し、工事中の1938（昭和13）年には「千里山花壇」から「千里山遊園」に改称された。

その後、時局の悪化に伴い、1943（昭和18）年12月に「千里山厚生園」と改められ、さらに軍事物資の貯蔵施設となったことから1945（昭和20）年に閉鎖された。1946（昭和21）年4月に再開され、名称も「千里山遊園」にもどされたが、戦後の混乱期から入園者が減少し、1950（昭和25）年5月31日に閉園された。閉園2カ月前の3月には京阪神急行電鉄と、ある女子学院との間で売買契約が結ばれたが、遊園地の広大な敷地は関西大学の拡張のために欠かせられないため、交渉を重ねて同年12月15日、譲渡契約の調印にこぎつけた。購入した跡地は「関西大学外苑」と名づけられ、その後の発展に大きく寄与していく。

千里山花壇の飛行塔

表紙写真　1927（昭和 2）年に完成した大学本館
裏表紙写真　大正 11 年に完成した予科校舎

関西大学年史編纂室
〒 564-8680　大阪府吹田市山手町 3-3-35
TEL：06-6368-1062（直通）
URL：www.kansai-u.ac.jp/nenshi/　E-Mail：nenshi@ml.kandai.jp